

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100412		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通東(つばき館)		
所在地	札幌市中央区大通東6丁目12-21		
自己評価作成日	令和2年1月26日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の個々の能力に応じ、できる力を発揮できる機会を設けている。 ・「手伝うよ」「何かしますか?」との言葉を引出し「ありがとう」の言葉を伝えるやり取りを大事にしている。 (十分にできなくてもやろうとする気持ちや感謝の気持ちを伝える事を大切にしている) ・一緒に笑うことを大切にしている。 ・悪天候・悪路面以外は外に出る機会を積極的に設けている。 ・極力行事を行う際にはご家族に周知し、参加を促している。 ・地域に知っていただくように回覧板を参考に地域活動への参加をしている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100412-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームみのり大通東」は、地下鉄東西線バスセンター前駅から徒歩で数分の札幌市中心部に立地している。定員9名の2ユニットと6名1ユニットのグループホームである。近隣には永山記念公園やスーパーマーケット、複合商業施設などもあり生活の利便性が高い事業所である。居間や食堂の共用空間は大きな窓に面した明るく開放感のある造りで、季節感に配慮した雑飾りや利用者の作品が飾られており、家庭的な温もりが感じられる。新たに就任したホーム長を中心に全職員で一人ひとりの思いに寄り添い、本人の持っている能力を可能な限り継続できるように細やかに対応して、笑顔で楽しい日々が送れるように温かなケアを行っている。身体拘束適正化委員会のメンバーを中堅職員で構成して学ぶ機会を作るとともに、職員が交代で研修の講師を務めるなど、ホーム長は職員の資質向上と育成に積極的に取り組んでいる。年間を通して外出する機会も多く、初詣やお花見、紅葉見学のほか、好きなお弁当を持ってピクニックに出かけて四季の移り変わりを楽しんでいる。お正月や節分、夏祭りなど家族が参加する行事も多く企画している。毎月発行している個別の広報誌は、内容を再検討してコメントと共に日常の様子を写真で伝える新たな取り組みを行うなど、運営やケアに前向きに取り組んでいる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活歴に配慮し、個々の役割を持って頂く事で、その方らしく生活できるよう配慮している。	「地域の方々とのご縁を大切にし、いつまでもこの地に根ざしたあたたかいホームを目指します」という地域密着型サービスを意識した独自の理念を作成し、事業所内の要所に掲示している。職員採用時に説明して理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	悪路・悪天候時以外は、極力外に出る機会を設け、中には動物や子供などを通じ話をする方もいる。近くにスーパーが出来た為、買い物に出かけ店員さんとの交流もある。	事業所の行事開催時に歌や踊りのボランティアが来訪したり、教会のボーイスカウトが訪れて利用者とお話をしたり掃除などを一緒に行っている。教会のバザーや小学校の学習発表会にも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、勉強会の機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は随時行っており、希望が出れば、添える様努力している。	家族数名の参加を得て、歯科衛生士による口腔ケアセミナーや高齢者の疑似体験など、毎回テーマを工夫して開催している。会議案内と議事録は全家族に送付している。町内会がないため、現状として地域住民の参加が得られていない。	年数回でも会議に出席してもらえるように、今後も継続して近隣住民に参加を依頼するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	蜜にまでとはいかないが、必要に応じて相談するなどしている。	ホーム長は、介護保険の更新申請で区役所を訪問したり、提出書類の疑問点などについて電話で確認することもある。普段から電話やファックスで情報交換しながら連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の関係上、自動ドアの開閉には制限があるが、安全性を配慮しながら、フローを跨いで自由に行き来が出来るようになっており、スピーチロックも含め動作・行動制限をしないよう努めている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、定期的に内部研修を行っている。中堅職員を中心に身体拘束適正化委員会を実施し、全職員で拘束のないケアに取り組んでいる。利用者が出かけようとした時は職員も同行し、安全面に配慮しながら自由な外出を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月第3水曜日は全体の研修日で、虐待防止法は必ず3カ月に1回程度行っており、日々の観察や入浴の際皮膚状態を観察し、情報を共有している。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月第3水曜日の研修日で実施している。すでに、利用している入居者様もおられるが、必要であれば、市町村担当者や、医師、ソーシャルワーカーなどに助言を受けながら活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問は極力解消するために十分な説明を随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置しているが、ご家族面会時には随時聴き取るよう心がけている。入居者様の声は可能な限り実現するよう配慮している。	来訪時や介護計画の作成時に家族の意見や要望を聞き取り、内容に応じて個別に記録している。今年度は個別の広報誌内容を再検討し、コメントと共に日常の様子を写真で伝えるように変更している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	聴き取りの機会は随時設け、実現可能なものについては即座に動くよう努力している。またユニット会議や全体会議で意見の反映を行っている。	ホーム長や管理者は、普段から職員の意見や提案を活かして業務の流れや分担を変更したり、シフト調整などを行っている。研修の講師を職員が交代で務めるなど、役割を持って運営やケアに携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じた役割分担、年2回個々の頑張りに応じた決算賞与がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1か月研修、3か月研修等、定期的な研修や主任研修など役職に応じて定期的に研修を設けており、それを現場で実践できる様、配慮されている。今年度より、役職者を目指しているスタッフに対しての研修も取り入れ、他のユニットへ学習の為の短期間異動も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会や忘年会、それ以外にも研修、プロジェクトなどがあり、定期的に各職種が集まる交流の場がある。そこで得た情報などを現場で活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をよく聞き、時に付き添い、じっくり話を聞きながら、性格や生活歴を加味し、物の言いやすい、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の安心がどこにあるのか探り、話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがそもそもどういうもので、他、どういうサービスがあるのか、わからない方も多い為、そこを含め説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係ができる様、作業などを通じて橋渡しを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も相談し、不調時や受診時、また行事などに関しても、できる範囲でのご協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会だけでなく、手紙や電話などの機会も継続できるよう支援している。	職場関係の知人が来訪したり、親戚などが訪ねて来る利用者もいる。親族から年賀状が届いたり、電話で話をする方もいる。職員と一緒に大通公園に外出したり、家族と馴染みの美容室や墓参りに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自発的に助け合う場面が見られ、危険がない限り見守り、時に助言し、他者への興味が失われないよう橋渡しを行っている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、現状を確認し、困りごとなどについてはアドバイスするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいという方が多いため、極力ここでの生活に不自由さを感じることがないように工夫し、時には家に帰る為に必要なこともアドバイスするなどしている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。3か月ごとにセンター方式B-3シートを作成し、情報を蓄積している。生活歴シートを整備して利用開始時に記入してもらおうとも考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、ご家族から可能な限りの情報収集に努め、入居後は、ご本人に昔の話などを聞くなどし常に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の状況に見合った過ごし方ができる様、また、できる事は手伝ってもらおうなどし、今何がどこまでできるのかの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集を日々行い、ご家族・スタッフからも聞き取りをしつつ計画書に生かしている。	利用者の担当職員を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。家族の意向を聞き取り、具体的な計画につなげている。短期目標に沿って変化を「ケース記録」に記入し、職員間で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関係ないと思う小さなことでも、記録や連絡ノートに書くなどし、情報共有に努めている。すぐにできそうな事は、試すようにし、だめなら手法を変える。結果、計画に位置付けているものもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないことより、まず何ができるのかを考えるようにしている。やってみてだめなら変える努力をし、状況に応じてスタッフの勤務時間も変えるなどして対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人にも危険がある事を口頭で伝達し意識を持って頂きつつ、状況に応じ、買い物に出る、散歩に出る、お茶を飲みに出かけるなど楽しみを持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の情報を三者が共有しつつ、互いに相談しながら、必要かつ適切な医療が受けられるようにしている。	利用者や家族の意向に沿って、協力医療機関やかかりつけ医の往診を受けている。専門医の受診は健康状況に応じて職員が同行し、主治医と情報交換しながら適切な医療支援を行っている。「医療情報」に往診や受診を個別に記録している。	

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師、2週間に1回は往診医師が来ており、その時の状態に応じてどこに受診すべきか、どの様に見ていくのかのアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には病棟看護師やソーシャルワーカーと情報交換や相談し、退院前に面会やカンファレンスに参加するなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、ご家族やご本人の希望に沿った終末期を迎えられるよう、チームでも情報を共有し、目標を立てながら実践していく。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」を基に、常時医療行為が必要になった時は事業所として対応が難しいことを伝えている。家族の意向に沿って看取りを行い、勉強会も随時実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じ、手順について話をしたり、マニュアルを作成し目を通すようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で町内会・ご家族様から情報を得て、避難マップを準備し、災害を想定しての訓練や話し合いを実施している。	家族の参加を得て、運営推進会議と同日に避難訓練を実施することもある。年2回、昼夜の火災を想定した訓練を行い、うち1回は消防署の協力を得ている。地域住民の参加は難しいが、今後も継続して働きかけていきたいと考えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に安心・納得できるような言葉かけや対応を心がけている。	利用者には「さん」付けを基本に、家族の了承を得た上で本人から一番良い反応が得られる呼び方をしている。記録類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの勝手な思いを押し付けず、何がしか自分で選べる様な言葉かけを、その時々で実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的な外出などは難しいこともあるが、時間提示をするなどの努力もしながら、極力希望に沿えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを十分理解し、衣類などは一緒に選ぶなどの配慮もしている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や心身の状態、メニューに応じ、できる事を分担しながら毎日実践している。	利用者の状況や意向をくみ取り、食事メニューに反映させて下拵えを一緒に行っているユニットもある。年に数回、和食レストランなどで外食をしたり、行事の際は出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食は時間に囚われず、好みを把握しながら勧める努力をしている。盛り付け時に、妥当かどうか本人にも確認したり、事前に量調整、補食また、形状・形態の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の習慣に応じて、支援が必要な方は毎食後に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて定時誘導したり、普段から排泄表を使用しパターンを把握する工夫をしている。またおむつを使用して自身で上げ下げしやすいように、また交換しやすい様に衣類調整やおむつ設置の工夫をしている。	可能な限り、利用者自身で排泄ができるような声かけや支援を行っている。日中はトイレでの排泄支援を基本に、夜間は利用者の状況に応じてパッドやおむつなどを使い柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操や乳製品を勧めるなどの工夫をしている。粉寒天を米に入れて炊いている工夫は現在も実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限週2回は入れる様、基本の曜日は決めているが、時間を決めてもらったり、入りたい時には入れる様、入りたくない時は時間や曜日をずらすなどの工夫している。	最低週2回は入浴ができるよう、利用者の希望や状況を考慮しながら支援している。入浴剤を使い入浴が楽しめるような工夫もしている。手すりには見えやすい印を付け、安全面にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できる様、日中の活動量に注意をしながら、時に休息を促すなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された際には特に注意を払っており、時に調べて、連絡ノートに副作用について記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一時でも気分転換になるような作業の提供や買い物や外食、またチラシを見て食べたいと言っていたおやつを買いに行くなどしている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つばき館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望などは記録に残すようにし、ご家族とも共有しながら実現できる様努めている。すぐ対応できそうな場所については、状況が許す限り、行けるよう支援している。	初詣やお花見、紅葉見学など、季節の行事を楽しめるような外出支援をしている。利用者の希望もくみ取り、個別の外出支援にも取り組んでいる。利用者が外出したくなるような促しや声かけをするよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、自己管理され、買い物に行き、自身で支払する機会を設けている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りを付けたり、窓を開けるなど配慮している。特に音や明かりは気を配っている。	共用空間は窓から光が入り込み、温かみのある雰囲気になっている。広報誌や利用者が書いた習字などの作品も飾られている。食事の際は、音楽を流して落ち着いて食事を楽しめるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを分けたり、ソファ、テレビの置く位置など配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には少しでも安心できる様、馴染みの家具や好みの衣類の持参を依頼している。	居室内は利用者が使い慣れている家具を持ち込んでいるほか、家族の写真など、好みのものが飾られている。利用者の状況に合わせ、家具の種類や配置にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一部張り紙はしているが、トイレや台所、洗面所などの場所がわかりやすく、手すりも見やすいよう設置している。極力動線に注意して家具も設置し、安全に動けるよう考慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100412		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通東(さくら館)		
所在地	札幌市中央区大通東6丁目12-21		
自己評価作成日	令和2年1月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の個々の能力に応じ、できる力を発揮できる機会を設けている。 ・「手伝うよ」「何かしますか?」との言葉を引出し「ありがとう」の言葉を伝えるやり取りを大事にしている。 (十分にできなくてもやろうとする気持ちや感謝の気持ちを伝える事を大切にしている) ・一緒に笑うことを大切にしている。 ・季節ごとに装飾をし季節感を感じていただく。又外出行事を行い家族様と入居者様の思い出作りを大事にしている。 ・地域に知っていただくように回覧板を参考に地域活動への参加をしている。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100412-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の生活歴に配慮し、その方らしく生活できる様に配慮しているとともに個々を尊重し役割を持っていただけるよう働きかけ実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	教会でのバザーへの参加や歌のボランティアさんが来所され交流がある。ただ日常的には至ってない。町内会は高齢者が多く町内会行事が少ない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し理解や支援法などを説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は毎回おこなっており、またご意見や希望、曜日や時間帯の工夫も考え参加しやすいものとし向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で地域の情報などお話しいただけるように参加を依頼するなどして、ホームを知っていただけるよう努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地や防犯上、オートロックの施錠玄関ではあるが、ホーム内はユニットを越えて自由に行き来できるように対応している。身体拘束についての勉強会を開催しケアに取り組んでいる。身体拘束をやむおえず実施の場合は記録しカンファレンスを定期的に開催しケアの見直を常にし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。会議時に虐待委員会による内部研修も行い、声掛け法やどの対応が虐待に当たるのか、またスタッフ同士が対応について注意しあえる環境づくりをしている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各資格取得の際に学んでいる。すでに利用されている入居者様もあり、ご家族様含め情報・対応の役割分担など協力している。内部研修としても取り上げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	難しい専門用語は使わず、理解いただけるように説明しており、随時質問にお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置し、メモ用紙、ボールペンを用意して意見をいただける環境作りをしている。また、面会時にご意見を頂戴できるよう働きかけている。入居者様との日常会話から意見を聞き取りし行事等に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社として年2回の人事考課面接行っている。職員の意見は発想が豊かで気づく視点も違い貴重な為、出来るだけ事業所で取り入れられる様になっている。他職員の調和も考えユニット会議や全体会議で検討することもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11の内容の他、職場環境の理由で退職者が出ないようにやりがいや意欲を本人と相談し、ユニット異動や希望の職場(有料老人ホームやサ高住・居宅サービス)への異動の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月一度行っている。職員からの要望を受け技術講習会、勉強会をスタッフが講師となり指導することもある。外部から講師を招き受講することもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや外部研修参加など。又、各事業所から選出された実務者レベル研修など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の状態によっては、あまり多様にスタッフが変わるとよくない場合や、ご家族がいると逆に良くない場合を見極め、本人様の様子に合わせてご家族と相談し時間をかけながら寄り添う姿勢からなじみになれるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の際に、本人様のご様子の伺いの他、ご家族の不安や要望をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのサービス内容をご説明し理解された後で再度説明が必要な場合がある。その都度説明相談し一緒に検討し必要関係機関との連携に発展出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアする側だけでなく、昔話や生活の知恵など人生の先輩として職員が知らない知識を学ぶ機会を頂戴している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態を説明しつつ家族様だからこそできることを説明し職員と一緒に支えていくケアができるよう働きかけている。面会がその一つでもあり、面会が遠のきそうなお家族にはきかけをつくり面会に来ていただけるよう働きかけている。行事への参加も呼び掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援が大きく、遠方から親戚の方や友人がみえた際は、ゆっくり過ごしていただけるよう環境づくりをしている。アルバムなど持ってきてもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ら他者のお声かけや、手を貸している様子を制止しない事。またスタッフのお声かけによって「いいよ」と快く手伝ってくださるような環境づくりをしている		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の理由によって「待機登録」の提案をご家族にさせていただき、希望時待機登録している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の難しい方にはご家族から情報をいただく事もある。何気ない会話からどのように生活していきたいか読み取る努力を継続している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族とのコミュニケーションを通じたり、アセスメントシートを読み返すなど、現状とあわせて知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の会話やしぐさからその時その時の状況を見極めその時のその方にあつた1日を過ごしていただけるよう職員間で情報交換しケアに務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集を日々行い、スタッフからも聞き取りをしつつ計画書に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関係ないと思う小さなことでも、記録や連絡ノートに書くなどし、情報共有に努めている。すぐにできそうな事は、試すようにし、だめなら手法を変える。結果、計画に位置付けているものもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに答えられるように、会話を大切にしている。話しやすい、相談しやすい環境をつくる努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じ、買い物に出る、散歩に出るなど、楽しみを持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要によって訪問診療先をご家族の希望で変更する対応をおこなう事でご家族から安心いただき適切に相談できる関係を作っている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に1週間の様子や相談内容を書面で渡している。また、医療知識を学んだり、観察点のアドバイスをうけられる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には病棟看護師やソーシャルワーカーと情報交換や相談し、退院前にカンファレンスに参加するなどしている。入院の際には面会を必ずし本人様のご様子の把握、ご家族様との意見交換もし状態の把握をつねにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、ご家族やご本人の希望に沿った終末期を迎えられるよう、チームでも情報を共有し、目標を立てながら実践していく。また家族様からどのような終末期を迎えたいかの意見も折をみて伺っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じ、手順について話をしたり、作成しているマニュアルをわかりやすい場所に設置し目を通すようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で町内会から情報を得て、避難マップを準備し、災害を想定しての訓練を実施している。実戦で常に役に立つことも想定した訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に安心感や笑顔がみえる関わりを意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情から、思いを感じたり希望をうかがっている。自己決定出来ない方もいるため職員介入し決定しやすいお声かけをするなど努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごし方のパターンや安心できる場所の提供や雰囲気づくりをし自由に過ごして頂ける意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみや同じ物ばかり着ないようにと季節に合わせた衣類を選んでいただく。またご本人が選びやすい言葉運びに努めている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付の作業をして頂き、会話の中から食の思い出や食べ物の好みや昔話などを話している。味見してもらい味の塩梅をみてもらうこともある。食べる時には○○美味しいねなど食の共有をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養や水分が取れる様支援している。状態によりその方にあった形態に変化させたり(おにぎりやパン、おかゆ、麺など)食べやすい様にし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の利用の他、3食後の口腔ケアの実施している。お手伝いの必要な方もいるが苦痛にならないように配慮しながらおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や言動から排泄サインを読みとり必要な援助をしている。また、場所がわからない方のために「トイレ」と張り紙をトイレの位置がわかりやすいようになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、運動による自然排泄に努めているが、便秘時にはお薬使用しての排泄も取組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限週2回は入れる様、基本の曜日は決めてはいるが、時間を決めてもらったり、入りたい時には入れる様、入りたくない時は時間や曜日をずらすなどの工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できる様、日中の活動量に注意をしたり、また光や音などへの配慮しながら安眠や休息を促すなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された際には特に注意を払っており、副作用について記載し周知している。またセット間違いのないように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特別な活動(レクや行事)以外でも日常の生活リハビリも取り入れたり、不定期ではあるが個別に散歩に出かけたりしている。冬場は外気浴を。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける距離を確認し、安全に外出できるよう車いすを用意している。近所のスーパーへ買い物や気分転換の為出かける時もあれば季節を感じていただけるようさくらや紅葉見学に行くこともある。円山動物園などご家族様の協力も得て外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事や持つことに自信がない為、かえて預かっているというのが安心な様子もあり無理にお預けしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望時に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとや行事ごとに飾りを付けたりし雰囲気が出る様工夫している。又、入居者様の動線に配慮しテーブル位置の変更や入居者様に合わせた温度調節もし居心地のよい空間づくりを実践している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー席やテーブル席を自由に座れるようにしている。(座席の固定はしていない)。なじみの方との会話や作業ができる様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には少しでも安心できる様、馴染みの家具や好みの衣類の持参を依頼している。また家族様の写真など自由に貼っていただいたりし居心地の良い空間を作られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一部張り紙はしているが、トイレや台所、洗面所などの場所がわかりやすく、手すりも見やすいよう設置している。動線に注意して家具も設置し、安全に動けるよう考慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100412		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通東(ぼたん館)		
所在地	札幌市中央区大通東6丁目12-21		
自己評価作成日	令和2年1月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の個々の能力に応じ、できる力を発揮できる機会を設けている。 ・「手伝うよ」「何かしますか?」との言葉を引出し「ありがとう」の言葉を伝えるやり取りを大事にしている。 (十分にできなくてもやろうとする気持ちや感謝の気持ちを伝える事を大切にしている) ・一緒に笑うことを大切にしている。 ・悪天候・悪路面以外は外に出る機会を積極的に設けている。 ・地域に知っていただくように回覧板を参考に地域活動への参加をしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100412-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活歴に配慮し、個々を尊重し、その方らしく生活出来るように配慮している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	悪路・悪天候以外は、極力外に出る機会を設け、近隣の飲食店を利用したり、利用者様の消耗品等も地域の店舗で購入、店舗スタッフとも顔なじみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、勉強会を行う機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は随時行っており、希望が出れば、添える様努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密にとまではいかないものの、ケアプラン等の相談は随時させて頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の関係上、自動ドアの開閉には制限があるが、安全性を考慮しながら、フロア間を自由に行き来出来るようになっており、スピーチロックを含め動作・行動制限をしない様努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月第3水曜日は全体の研修日で、虐待防止法は必ず3カ月に1回程度行っており、日々の観察や入浴の際皮膚状態を観察し、情報を共有している。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月第3水曜日の研修日で実施している。すでに、利用している入居者様もおられるが、必要であれば、市町村担当者や、医師、ソーシャルワーカーなどに助言を受けながら活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問は極力解消するために十分な説明を随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置しているが、ご家族面会時には随時聴き取るよう心がけている。入居者様の声は可能な限り実現するよう配慮している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	聴き取りの機会は随時設け、実現可能なものについては即座に動くよう努力している。またユニット会議や全体会議で意見の反映を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じた役割分担、プロジェクトチーム加入などにより給与に反映されたり、年2回個々の頑張りに応じた決算賞与がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1か月研修、3か月研修等、定期的な研修や主任研修など役職に応じても定期的に研修を設けており、それを現場で実践できる様、配慮されている。今年度より、役職者を目指しているスタッフに対しての研修も取り入れ、他のユニットへ学習の為の短期間異動も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	忘年会や研修、プロジェクトなどがあり、定期的に各職種が集まる交流の場がある。そこで得た情報などを現場で活用できるようにしている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をよく聞き、時に付き添い、じっくり話を聞きながら、性格や生活歴を加味し、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話を伺う中でご家族の安心がどこにあるのか探り、話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがそもそもどういうもので、他、どういうサービスがあるのか、わからない方も多いため、そこを含め説明している。暮らす中で必要なサービスが出て来た時は関係機関をご提案し検討して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上ご本人様の出来る事をお願いさせて頂いたり、持ちつ持たれつ関係を意識して生活を共にさせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も相談し、意向を伺い、不調時や受診時、また行事などに関しても、できる範囲でのご協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会だけでなく、馴染みの方の写っている写真をご本人様と見ながら思い出を伺ったりする機会も設け親しかった方との関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者様同士の仲介をしい関係作りが出来るよう努めている。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、現状を確認し、困りごとなどについてはアドバイスするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時その時の感情、思いをお聴きしながら、ご本人様からはっきり伺えない時にはご家族様に伺い、本当の希望や願いを把握できる様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、ご家族から可能な限りの情報収集に努め、入居後は、ご本人様から昔の話などを聞くなどし常に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で情報を共有しその日、その時の体調、精神状況に見合った過ごし方ができる様、配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集を日々行いながら、ユニット会議などでスタッフからも聞き取りをしつつ計画書に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも、記録や連絡ノートに書くなどし、情報共有に努めている。すぐにできそうな事は、試すようにし、だめなら手法を変える。結果、計画に位置付けているものもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に合わせてサービスを変えたり、ご家族様の状況に合ったサポート体制を取るなど柔軟性を大切にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じ、買い物に出る、散歩に出るなど、楽しみを持ち四季を体感して頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	経過記録や面会時にお聞きした希望等を伝える事で、適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師、2週間に1回は訪問診療が入っており、その時の状態に応じてどこに受診すべきか、どの様に見ていくのかのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行きご本人様の状態を把握、必要時には病棟看護師やソーシャルワーカーと情報交換や相談し、退院前にカンファレンスに参加するなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、ご家族様やご本人様の希望に沿った終末期を迎えられるよう、チームでも情報を共有し、目標を立てながら実践していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じ、手順について話をしたり、マニュアルを作成し目を通すようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で町内会から情報を得て、避難マップを準備し、災害を想定しての訓練を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方らしい話を引き出す事が出来るよう、お一人お一人の状況に合わせて声を掛けている。また、言葉掛けの仕方も学ぶようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に意思や感情表現が出来る雰囲気作りをし、ご本人様の自己決定を引き出せるような言葉掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	先ずその日その時の体調と気分を把握した上で、ご本人様の意向を伺いながら休んだり、活動したり、入浴したり場所も時間も自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や気温に合わせてご本人様に選んで頂いたり、こちらで予想して選んだり、行事の時にはお気に入りの服で参加できるように、又いつも清潔に過ごして頂けるように配慮している。		

グループホームみより大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味つけを心掛けたり、安全に食事を楽しんで頂けるよう個々に合わせて食形態を変え、食前に口腔体操を行い、姿勢を整えてから提供している。食器拭きは手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で其々摂取量を把握し、量が少ない時は適宜おやつ等召し上がって頂いたり、好みの飲み物を提供し不足分をその日の内に補う努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人歯科医や衛生士の方に教えて頂いた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で把握した排泄パターンを参考にそれぞれの方の状態に合わせてトイレのお声掛け、パット交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が体調不良や精神状態に深く関わっている事から水分の摂取と体操はすべての利用者様共通で注意している。また、牛乳の提供を行っている。訪問看護師や主治医と相談しご本人様の状態に合わせて薬の力も借りながら排便調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回のペースで、体調、その方の調子の良い時間帯を見計らってお誘いしている。好みのお湯の温度にし入浴剤を入れ気持ち良く、楽しく入る事が出来るよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の好みの暗さ、好みの場所で休んで頂く事が出来る環境を整え、温度、湿度に配慮をしている。日中はご本人様の希望や疲れ具合、体調により適宜休息のお声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認したり、薬の変更や追加があった場合は連絡ノートや申し送りで情報を共有、薬変更後には体調に変化が無いが観察し医師へ報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日体操をし、馴染みの歌を歌ったり、好みに応じて文字の書き取り、絵本を読むなどの活動を行っている。食器拭きや料理の盛り付け、洗濯たみ等の役割を持つ方もいる。		

グループホームみのり大通東

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ぼたん館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在自ら外出の希望をされる方はいないが、ご家族様とお墓参りや喫茶店へ出掛けたり、行事でもみじ狩りを企画したり、天気、気候の良い時はなるべく戸外へ出る機会を持つようになっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様とご家族様の希望があればお小遣いはご自分管理でお持ち頂き、理美容の支払いや買い物の際そこから支払うか都度確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時対応する。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる壁面装飾、写真入りの利用者様の様子の張り出し、温・湿度の管理、食事中はオルゴールの音楽をかけ、ゆっくり食事に集中できる環境を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おひとりおひとり、お気に入りや安心できる場所がある。個人のソファ等も時には移動し、居心地良く過ごして頂く事が出来るよう、適宜スタッフが利用者様の仲立ちをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの家具、道具、小物などを持ち込んで頂き今迄の環境を出来るだけ継続して行く事が出来るようになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸への張り紙、カレンダー、時計、手すりを設置し見て分かりやすく安全な環境を心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり大通東

作成日：令和 2年 3月 5日

市町村受理日：令和 2年 3月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	町内会もない為、現状として地域住民の運営推進会議への参加が得られていない。	年数回まずは一人でもよいので、会議に地域の方に出席してもらえる様に参加を依頼する。	交番・近隣の店・会社・教会・小学校・まちづくりセンターなどにまずは1回でもよいので参加をしてもらえる様促しを行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。